

議会運営委員会

日 時 平成29年9月12日（火） 午後 時 分～
場 所 第3委員会室

1 9月14日の本会議議事日程について

- (1) 日程
 - 第1 一般質問
 - 諸報告
 - 第2 第1号議案から第52号議案（質疑、付託）
- (2) 諸報告
 - ・点検・評価報告（教育長）
- (3) 質疑順序（第1号議案～第52号議案）
 - ① ② ③
- (4) 議案付託（第1号議案～第52号議案）
 - 付託表のとおり ※付託表は本会議に持参

2 9月15日及び19日の会議日程について

- (1) 9月15日（金）
 - 10:00～ 京都スタジアム（仮称）検討特別委員会（審査）
- (2) 9月19日（火）
 - 10:00～ 各常任委員会（審査）
 - 終了後 決算特別委員会各分科会
 - 午後～ 広聴部会、広報広聴会議
 - 終了後 環境厚生常任委員会（予定）

3 陳情・要望について

- (1) 「全国森林環境税の創設に関する意見書採択」に関する陳情
 - …【総務文教常任委員会】
- (2) 地球で生き続ける為の地球社会建設希望決議を、今、して頂きたい陳情書
 - …【議長供覧】
- (3) 京都スタジアム（仮称）建設予定地の二重買収の責任を明確にしていきたい。
また、不動産鑑定評価など土地取引に関する市の姿勢や、交通、治水問題など市民生活への影響について徹底した調査審議をお願いします。さらに、スタジアムがどのような使い方ができるのか現実的な検証をさせることに関する要望書【別紙No.1】
 - …【京都スタジアム（仮称）検討特別委員会】
- (4) 平成30年度理科教育設備整備費等補助金予算増額計上についてのお願い
 - …【総務文教常任委員会】【別紙No.2】

【裏面につづく】

4 決算特別委員会について【別紙No.3】

(1) 9月20日(水)の日程

①10:00～ 全体会(全員協議会室)

市長あいさつ、会計管理者概要説明

※<説明資料>提出予定議案の概要(招集告示日に配付済)を全協室に持参

②10:30～ 分科会(各委員会室)※事務事業評価は全協室

審査(執行部説明、質疑)

(2) 委員長及び副委員長

◎委員長：小島副議長

○副委員長：小川議員(環境厚生常任委員長)

(3) 亀岡市総合戦略に係る交付金事業の説明について【別紙No.4】

5 意見書提出期限について

○9月27日(水)10:00まで

6 その他

(1) わがまちトーク(各種団体版)について

(2) 次回議会運営委員会

9月28日(木)幹事会(14:00～)終了後 議会運営委員会

※事前調整 9月28日(木)13:00～(正副議長、正副委員長のみ)

平成 2 9 年 9 月 定例会 議案付託表（その 1）

付託委員会	議案番号	件 名
総務文教 常 任	1	平成 2 9 年度 亀岡市 一般会計補正予算（第 2 号）
	4	亀岡市税条例等の一部を改正する条例の制定について
	4 8	町の区域及び名称の変更について
環境厚生 常 任	1	平成 2 9 年度 亀岡市 一般会計補正予算（第 2 号）
	2	平成 2 9 年度 亀岡市 国民健康保険事業特別会計補正予算（第 1 号）
	3	平成 2 9 年度 亀岡市 介護保険事業特別会計補正予算（第 1 号）
産業建設 常 任	1	平成 2 9 年度 亀岡市 一般会計補正予算（第 2 号）
	5	亀岡市自転車等駐車場条例の一部を改正する条例の制定について
	5 0	市道路線の認定及び廃止について
京都スタジアム（仮称） 検討特別	4 9	財産の無償貸付について

平成 2 9 年 9 月 定例会 議案付託表（その 2）

付託委員会	議案番号	件 名
決算特別 (総務文教 分科会)	6	平成 2 8 年度 亀岡市 一般会計 決算認定について
	1 4	平成 2 8 年度 亀岡市 曾我部山林事業特別会計 決算認定について
	1 8	平成 2 8 年度 亀岡市 亀岡財産区特別会計 決算認定について
	1 9	平成 2 8 年度 亀岡市 東別院財産区特別会計 決算認定について
	2 0	平成 2 8 年度 亀岡市 西別院財産区特別会計 決算認定について
	2 1	平成 2 8 年度 亀岡市 蕨田野財産区特別会計 決算認定について
	2 2	平成 2 8 年度 亀岡市 本梅財産区特別会計 決算認定について
	2 3	平成 2 8 年度 亀岡市 畑野財産区特別会計 決算認定について
	2 4	平成 2 8 年度 亀岡市 馬路財産区特別会計 決算認定について
	2 5	平成 2 8 年度 亀岡市 旭財産区特別会計 決算認定について
	2 6	平成 2 8 年度 亀岡市 千歳財産区特別会計 決算認定について
	2 7	平成 2 8 年度 亀岡市 保津財産区特別会計 決算認定について
	2 8	平成 2 8 年度 亀岡市 篠財産区特別会計 決算認定について
	2 9	平成 2 8 年度 亀岡市 中野財産区特別会計 決算認定について
	3 0	平成 2 8 年度 亀岡市 平松財産区特別会計 決算認定について
	3 1	平成 2 8 年度 亀岡市 井手財産区特別会計 決算認定について
	3 2	平成 2 8 年度 亀岡市 中野平松井手財産区特別会計 決算認定について
	3 3	平成 2 8 年度 亀岡市 西加舎財産区特別会計 決算認定について
	3 4	平成 2 8 年度 亀岡市 東加舎財産区特別会計 決算認定について
	3 5	平成 2 8 年度 亀岡市 宮川財産区特別会計 決算認定について
	3 6	平成 2 8 年度 亀岡市 神前財産区特別会計 決算認定について
	3 7	平成 2 8 年度 亀岡市 北ノ庄財産区特別会計 決算認定について
	3 8	平成 2 8 年度 亀岡市 川関財産区特別会計 決算認定について

付託委員会	議案番号	件 名
決算特別 (総務文教 分科会)	3 9	平成 2 8 年度亀岡市千原財産区特別会計決算認定について
	4 0	平成 2 8 年度亀岡市美濃田財産区特別会計決算認定について
	4 1	平成 2 8 年度亀岡市杉財産区特別会計決算認定について
	4 2	平成 2 8 年度亀岡市山階財産区特別会計決算認定について
	4 3	平成 2 8 年度亀岡市印地財産区特別会計決算認定について
	4 4	平成 2 8 年度亀岡市河原尻財産区特別会計決算認定について
	4 5	平成 2 8 年度亀岡市元千歳国分財産区特別会計決算認定について
	4 6	平成 2 8 年度亀岡市国分財産区特別会計決算認定について
	4 7	平成 2 8 年度亀岡市小口出雲財産区特別会計決算認定について
決算特別 (環境厚生 分科会)	6	平成 2 8 年度亀岡市一般会計決算認定について
	7	平成 2 8 年度亀岡市国民健康保険事業特別会計決算認定について
	9	平成 2 8 年度亀岡市休日診療事業特別会計決算認定について
	1 1	平成 2 8 年度亀岡市介護保険事業特別会計決算認定について
	1 2	平成 2 8 年度亀岡市後期高齢者医療事業特別会計決算認定について
	1 7	平成 2 8 年度亀岡市病院事業会計決算認定について
決算特別 (産業建設 分科会)	6	平成 2 8 年度亀岡市一般会計決算認定について
	8	平成 2 8 年度亀岡市簡易水道事業特別会計決算認定について
	1 0	平成 2 8 年度亀岡市地域下水道事業特別会計決算認定について
	1 3	平成 2 8 年度亀岡市土地取得事業特別会計決算認定について
	1 5	平成 2 8 年度亀岡市上水道事業会計決算認定について
	1 6	平成 2 8 年度亀岡市下水道事業会計決算認定について
	5 1	平成 2 8 年度亀岡市上水道事業会計未処分利益剰余金の処分について
	5 2	平成 2 8 年度亀岡市下水道事業会計未処分利益剰余金の処分について



平成29年9月1日

亀岡市議会議長 湊 泰孝 様

平成29年9月1日 受理

要 望 書

(持参)

件 名 京都スタジアム（仮称）建設予定地の二重買収の責任を明確していただきたい。また、不動産鑑定評価など土地取引に関する市の姿勢や、交通、治水問題など市民生活への影響について徹底した調査審議をお願いします。さらに、スタジアムがどのような使い方ができるのか現実的な検証をさせるようにお願いします。

要望の要旨

京都スタジアム（仮称）（以下「スタジアム」という。）の建設予定地について、従前の予定地では当初からアユモドキなどの問題で実現性がなかったにもかかわらず、強引に買収や都市計画公園予定地としての手続を進めた経緯と責任が全く明確になっていませんので、前栗山市長、関係職員を参考人として至急招致して経緯と責任を明確にしてください。

6月市議会において、財産取得議案が可決されましたが、その際、不動産鑑定評価書は議員の皆様には供覧されただけです。用地交渉中であることがその理由とされましたが、その執行部の姿勢は不当ですので、今後の調査審査をお願いします。併せて、何故、京都府と共有なのか、共有は市にとって負担とならないか、財産区分をどうされるのかなども、極めて大切なことですので調査審査をお願いします。

交通シミュレーションは京都スタジアム（仮称）検討特別委員会の指摘要望事項の一つであり、市民の懸念の大きな要因です。交通シミュレーションや治水問題など、市民生活への影響を調査するには、環境アセスメントの実施が有効です。何故亀岡市がその実施を京都府に求めないのか徹底した調査審議をお願いします。

京都府は、サッカー以外に、ラグビー、アメフト、コンサートなどに使えるとっていますが、現実にはどうなのか十分調査審査をお願いします。

具体的な要望項目

京都スタジアム（仮称）検討特別委員会（協議会）において、亀岡市都市計画公園および京都スタジアム（仮称）に係る環境保全専門家会議村上座長が、「都市計画公園予定地に入れることに反対した。そのときの市長は何かあつたら計画を再考する。」と断言されたとの趣旨の発言をされました。この発言は極めて重大です。この発言が真実ならば、前市長は、従前の予定地でスタジアムに係る都市公園予定地としての手続や桂川右岸道路など関連公共事業を進めながら、他方、駅北地区を予定地とすることを内諾したことになります。

この真相と経緯を明らかにするには、前栗山市長、関係職員を参考人として招致することが必要と考えます。当初、京都府は従前の土地については、環境面や治水上問題がある（資料1の太い下線部分）といいながら、その後、従前の土地の治水問題は大丈夫だと見解を変更しました。このいきさつなどを整理しないとやはり心配です。京都府は、治水問題についての見解の変更を繰り返しています。それが何故なのか明確にされないと、亀岡市として将来の負担も含めて大丈夫とは到底いえません。そのためにも経緯を明らかにした上で、判断していただくことが大切と思います。

第2回京都スタジアム（仮称）建設に係る市民説明会質疑回答（資料2）（以下「質疑回答」という。）の20のキでは、行政サービスの低下はないと回答されています。しかしながら、亀岡市の税収は減る方向にあり、京都・亀岡保津川公園予定地の経費、スタジアム用地費、同関連工事など増加すれば、その他の事業は削減しなくては立ちいかなくなるということまでもないことです。

亀岡市の財政当局は、税収が不足する場合は交付税で見てもらえるから変わらないかのような説明を行いますが、全く間違っています。細かい説明になりますので避けますが、税収が減ってもその25%相当は交付税に算入されません。十分な調査審査をお願いします。

すでに小中学校の冷暖房の設置の遅れや、文化会館の冷房費のカットなど市民サービスの低下などに影響が出て市民の不満は高まっています。

具体的な要望項目2

6月市議会の京都スタジアム（仮称）検討特別委員会において、なぜ、不動産鑑定評価書（個人情報にかかわる部分を除く。）を執行部は配布しなかったのか未だに理解できません。不動産鑑定評価書を供覧だけにしたのは、情報公開条例に基づき不動産鑑定評価書を非公開としても、亀岡市情報公開・個人情報保護審査会は認めてもらえると甘い判断と同様の間違った判断があったのでしょうか。

不動産鑑定評価書は、土質調査書などと同様に単なる調査報告であり、地権者との売買交渉の単なる参考資料に過ぎません。用地交渉過程であるとの理由は判例などから通じないこと明白です。その結果、市長名で改めて情報公開決定をするという失態を行いました。亀岡市職員は、情報公開条例に基づき判断をせず、内部文書のマニュアルに頼ったため生じた失態です。亀岡市職員の判断は、市長を守るのではなく恥をかかせたのです。これと同様の判断だと思います。

資料4は、3者の不動産鑑定評価書のうち藤原鑑定士によるものです。

不動産鑑定評価書の内容の問題ですが、執行部の不動産鑑定依頼方法に大きな問題をはらんでいます。その問題は次の点などです。

- ・ 亀岡市の不動産依頼書では3社の鑑定士に「大きな街区での土地利用を想定しながら、街区ごとの平均単価の算定を行うこと。」と指示されています。これは、買い手の立場ではなく、売り主の立場に立った評価です。亀岡市は、大街区で利用を目的としながら、街区ごとの評価を行ったため、道路など公共用途の面積分が上乘せされた価格となっています。3者とも中高層の集合住宅やビジネスホテル利用を想定した評価です。
- ・ 国土交通省が定めた不動産鑑定基準評価基準の「不動産の価格を形成する要因」の一番に掲げられている「地質、地盤等の状況」に関する資料、例えば、くい打ちが必要な土地であること、地下水への配慮などの資料を執行部は提供していません。
- ・ その結果、資料4の19ページのまとめの但書で「鑑定評価額を決定する上では、鑑定評価基準に則った調査及び鑑定評価手法の適用が必要となることに留意する必要がある。」と鑑定士自らが亀岡市の依頼方法及び資料提供内容を批判されています。

亀岡市は、何故このような不適切な不動産鑑定依頼をしたのでしょうか。それは、不動産鑑定評価依頼を出す段階ですでに購入予定価格が概ね固まっていたからです。全地権者が買収同意と報道されたのは平成28年8月23日、亀岡市の不動産鑑定依頼は平成28年6月22日、不動産鑑定評価書の作成日は平成28年8月27日、多くの地権者と交渉するのに長期を要します。不動産鑑定評価も時間がかかります。亀岡市が買収交渉に提示する価格は不動産鑑定評価書が出るかなり前に固まっていなくて、多くの地権者がおられる買収交渉は出来ません。

亀岡市と地権者との間の売買契約がすでに締結されていたとしても、執行部の不動産鑑定評価依頼の方法や不動産鑑定評価の内容なども適切であるのか、十分調査審査を願います。二元代表制は、それぞれの立場で判断できることだと思います、執行部の判断材料になった資料は全て議会に公開させ、そのうち個人情報以外は市民にも公開されるように願います。

京都スタジアム（仮称）検討特別委員会では、何故共有になったのが執行部は説明をしていません。共有は民法原則からは持分割合が大きい亀岡市の責任が大きいですが、どのように京都府との間で処理されるのか市民には明らかにされていません。亀岡市の行政財産とすれば、営業の施設や電柱などの目的外使用許可は、府と市の2者に手続が必要です。土地の使用者には不便になります。財産無償貸付議案は不適切です。このようなことも市民が亀岡市の姿勢に疑問をもつ一因です。全てをつまびらかにするように執行部に働きかけていただきたいと思います。

具体的な要望項目3

交通シミュレーションの実施は、京都スタジアム（仮称）検討特別委員会の指摘要望事項の一つです。これの実施には、現状把握と、将来予測、その評価・対応策の検討が不可欠です。これは環境アセスメントの主要な項目です。

スタジアムは多くの方の来訪が前提とされています、例えば吹田スタジアムの環境アセスメントを見られていると思いますが、交通問題、騒音などの住環境問題が主な評価事項です。

市議会が求めている交通シミュレーションの実施は、環境アセスメントで実施すると、現状把握、将来予測は、事業者である京都府の仕事になります。亀岡市は評価さえすれば済みます。亀岡市は、環境基本条例で定めている環境アセスメントの実施を何故求めないのでしょうか。理解できません。

京都府は、資料2質疑回答の20のイにおいて、亀岡市には条例、要綱等がなく国のアセス法と府環境影響評価条例で行うほか、個別法令により対応することになると記載しています。これは、亀岡市が求めれば実施するとのことを間接的にいっています。それなのに何故求めないのでしょうか。

スタジアムの場合、アユモドキなど希少種の環境アセスメントは実施済みです。ただ、市民の生活環境は、現状把握さえ行われていません。資料2質疑回答の20のイでは、自ら誤解ある表現だと認めています。残る問題は、治水、騒音など市民の生活環境への影響と、交通シミュレーションです。

執行部が前向きな判断するように調査審査をお願いします。

治水問題について、資料2質疑回答の16では極めて問題なことが書かれています。「18号台風のような大きな豪雨では、亀岡ではダムの貯水池と同じような状態になる。」と。この考え方は、京都市などの下流から見た考え方です。ダムに例える表現は水害の被害を受けた方の気持ちを逆なでするだけでなく、亀岡で現在行われている段階的な治水対策の意味を理解しない、スタジアムだけが被害を受けなければ良いとする問題表現です。

駅北地区とスタジアムの治水上の問題は、遊水機能のある土地を分断するように堤防を築くことと同じ機能が働くことです。対岸や上流部への影響こそが問題だと認識がありません。市民生活を守るため慎重な調査審査をお願いします。

具体的な要望項目4

京都府は、平成28年度公共事業評価調書、きょうと府民だより、入札公募の現場説明書でも、サッカー以外に、ラグビー、アメフト、コンサートなどに使えると記載していますが、フィールドが使える面積があることと、現実集客が可能なトップクラスのリーグ戦などで定期的に使ってもらえることと全く違います。資料2の質疑回答の20のオでは、結局、日本サッカー協会からは、なでしこ代表、オリンピック代表の試合が出来るスタジアムとの回答をもらっているだけです。

定期戦で使ってもらわなければ効果がありません。

なでしこリーグの入場者数は、数十人程度から最大で4500人程度です。そのような試合に2万人のスタジアムは使いません。しかも、近くのチームでも神戸です。使ってもらえますか。

一流のアメフトチームは、選手、チェアガール、コーチ等事務局など150人以上がスタンド下に入れるスタジアムでなければリーグ戦は行えません。ラグビーもパス中心の戦術ならば試合の実施は可能でしょうが、今は大学の一流チームや社会人ラグビーのトップリーグでは、サイドへのキックでボールを運ぶことが多いのです。スタンドはフィールドと3m以上高くなければ危険です。身をもって感じています。

アメフトもラグビーも定期戦は2試合連続が多いです。サブコートがなければ使用できません。招待試合で使用料を行政が負担すれば試合は可能かもしれませんが、定期戦は困難です。

京都府は、資料2質疑回答の20のアで次のスタジアムは観客用の駐車場を持たないと回答しています。しかし、実態を形式的にしか見ない無責任な回答です。

- ・ 埼玉スタジアムは1時間に10本前後も発着する電車があり、公園全体の駐車場1085台（内スタジアム専用駐車場は500台で、Jリーグ等大規模イベント開催時は使用できない）、イオンモール4000台、そのほかにも800台程度の駐車場がある。
- ・ 味の素スタジアムは京王線・西武多摩川線の駅も近く、それぞれ本数も多い。駐車場は740台ある（Jリーグ等大規模イベント開催時は使用できない）。軒先駐車場を除いても約670台の民間駐車場がある。

ユアテックスタジアムは、地下鉄で1時間に8本、駅前駐車場だけでも900台を超える駐車場がある。
ナック5スタジアム大宮は施設規模が小さく、東武野田線・JRの駅に近接し、駐車場はないがコインパーキングなどが多く集中している。

柏スタジアムは、つくばエクスプレス、JR常磐線、東武野田線と鉄軌道が3線あり、市営駐車場のほか、予約できるコインパーキングが多くある。

以上ことから判明するのは、京都スタジアムの数十台程度では、選手、役員等試合関係者、報道関係者、スポンサー、車椅子使用者等の駐車場としても全く不足していることです。

亀岡の交通上の優位さは鉄軌道だけではなく、伊丹空港に近いことを理解していません。観光等の効果を期待するならアウエー客のアクセスを考えるべきですが、その視点さえも京都府にはありません。亀岡運動公園ならば伊丹空港からレンタカーならば1時間足らずで着きます。スタジアムとはそのようなものだとの観点がありません。

交通アクセスや駐車場問題は、設置者の思い込みではなく利用者へのサービスの観点で考えるべきです。それができていないと、農道などへの駐車などが多発すること、花火の例を見れば当然予測で来ます。地元市民の視点だけではなく、利用者の視点での調査審査を願います。

コンサートなどについては、設備だけでなく、イベント企画会社などと京都府が十分調整しているのか執行部にしっかりと点検させ、この点についても市議会において十分調査審査をお願いします。コンサートの実施は騒音、誘客、設備、需要、経営面などで緻密な分析と事前調査が必要です。最近では、京都を飛ばし、大阪、神戸で実施するコンサートが増えています。これは需給関係で決まります。音響の効果、騒音処理、設備、費用の想定などと、それらに基づく需給調査がなければ、全くの空論になります。

京都府はスタジアムの運営について、コスト削減のため、運営権制度の導入を検討しています。運営権制度となれば利用料金は運営権者が定めることとなります。設置者にはあらかじめ届けるだけで良いのです。運営権は物件ですから抵当権の設定や移転さえ可能です。このように民間に運営権を渡されたら採算性が優先します。地元の子ども達が使えるのでしょうか。今まで亀岡市がさんざん説明されたテナントなど地域の商店が入れるのでしょうか。常用雇用は増えるのでしょうか。地域振興に本当に役立つのでしょうか。

亀岡市は、スタジアムだけでなく、OSUをはじめ、京都府が言っているからと動き、様々な失敗を繰り返してきた経緯があります。自ら調査し、京都府に運営方法や使用料金のあり方などについて、具体的かつ積極的に意見を言う姿勢が必要だと思います。この点についても十分調査審査をお願いします。

亀岡市篠町馬堀池ノ下27-5

松尾 寛治

亀岡市北古世町1-10-5

松本 温賢

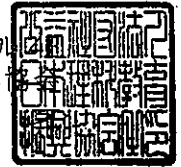


平成 29 年 8 月 25 日

都道府県議会議員 殿
市区町村議会議員 殿

平成 29 年 9 月 4 日 受理
(郵送)

千代田区神田小川町 3-28 昇龍館ビル
公益社団法人 日本理科教育振興協会
会 長 大久保



平成30年度 理科教育設備整備費等補助金予算増額計上についてお願い

本年3月に小学校・中学校の次期学習指導要領が告知されました。

理科教育においては、益々、[観察・実験]が重視され、今回初めて、学習指導要領の中で小中共に、**【環境整備に十分配慮すること】**という一文が加えられました。

[観察・実験]重視の視点から、これが十分実施できる理科教育環境整備に対する対応も重要であることが論じられています。

しかしながら、当協会の調査においては、小中高等学校の理科教育環境はまだまだ十分とは言えず、観察・実験の実践には、設備器具（観察・実験器具）の不足や、薬品や消耗材料の不足、実験準備・後片づけの時間など現場の教師に係る負担など、障害も多くあります。

障害の中でも、学校現場で最も困っていることが、5年連続で、小中高ともに「観察・実験機器の不足」と挙げられています。理科教育設備整備費等補助金事業は、小中高の観察・実験機器の整備拡充のための予算ですが、補助をうける団体が総事業費の半分以上を負担する事業となっています。

故に、積極的に理科教育設備整備費等補助金を取り込み、観察実験機器の充実に着手されている自治体とそうでない自治体との地域格差も懸念されます。

貴自治体管轄の小・中・高等学校の理科教育環境はいかかでしょうか。大幅に時数増となった理科教育について、充実した観察・実験授業を児童・生徒に体験させることができているでしょうか。小中高の理科教育の実態について、教育委員会に確認していただきたく思います。

(別紙、今年度調査を踏まえて「観察・実験こそ理科教育の基本です」パンフをご参照ください)

当協会では、新しい理科教育の実現のため「理科室へ行こう！理科室で観察・実験をしよう！」奨励活動を推進しております。

貴自治体管轄の全ての小・中・高等学校 理科教育環境整備向上のため、積極的な予算措置を、お願い申し上げます。設置者で用意された理科設備品購入予算の枠内で国の補助金に応募すれば、同額が補助金として交付され、2倍額の設備品の整備ができることになります。

本件のお問合せ先

公益社団法人 日本理科教育振興協会 常務理事 石崎
〒100-0052 千代田区神田小川町3-28 昇龍館ビル 4F
TEL:03-3294-0715 E-mail:info@japse.or.jp

決算特別委員会日程

日	時間	会議体制	内容
【1】 20日(水)	10:00～	全体会	委員長あいさつ 理事者あいさつ 決算状況説明
	10:30～	各分科会	審査 ※分科会審査の流れ 担当部ごとに審査(事務事業評価対象事業を除く) ～ 事務事業評価(※2参照) ～ 討論・採決
【2】 21日(木)	10:00～	各分科会	
【3】 22日(金)	10:00～	各分科会	
【4】 25日(月)	10:00～	各分科会	
【5】 26日(火)	10:00～	各分科会	委員長報告確認
	上記終了後	全体会	分科会委員長報告、事務事業評価結果
	上記終了後	会派会議	
	13:00～	全体会	討論、採決
	上記終了後	分科会委員長会議	

※1 必要により、会派会議実施

※2 事務事業評価日程 場所：全員協議会室

総務文教分科会	25日(月) 10:00～
環境厚生分科会	20日(水) 16:00～
〃	21日(木) 14:30～
産業建設分科会	22日(金) 10:00～

※3 インターネット中継録画配信対象：全員協議会室で行う全体会及び事務事業評価

<凡例>
A：地方創生に非常に効果があった
B：地方創生に効果があった
C：地方創生に効果がなかった

No.	①事業名	②担当部課	③実績額（円）	④事業概要	⑤取組内容	⑥取組の成果	⑦重要業績評価指標（KPI※）			⑧KPIに基づく評価		⑨その他
							項目	目標値（H29.3）	実績値	評価	特記事項	
1	保津川の魅力を定着化し地域資源に活用するまち興し	環境市民部 環境政策課 土木建築部 桂川・道路整備課 教育部 社会教育課 文化資料館	【総事業費】 19,697,449 【交付金】 19,697,449 (交付率10/10)	天然記念物アユモドキに代表される貴重な生き物の魅力を活用した事業を展開するため、川ごみ学習や保津川の歴史講座などで保津川の魅力を発信するとともに、景観整備や自然環境を活かした共生ゾーンを検討するなかで、まち興しを行う。	保津川の魅力を発信する取組として、保津川の自然景観を体感しながら環境保全の重要性を感じられる事業を展開することで自然環境・景観の保全に対する意識の向上を図り、川に視点を置いた暮らしの象徴として筏の復活とアユモドキの保護啓発活動を実施した。また、川と人との関わりや物流、川の生業の歴史についてなど保津川の文化遺産としての魅力に迫る全2回の「保津川歴史講座」を開催し、歴史講座への参加が少なかった若年層を対象として保津川の魅力について解説したパンフレットを作成した。 保津川の魅力を定着化する取組として、「京都・亀岡保津川公園」内において、アユモドキをはじめとする希少な生物が生息できる共生ゾーンの整備に向けたアユモドキ生息環境再生整備実験を行うとともに、亀岡市都市計画公園「京都・亀岡保津川公園」共生ゾーン基本構想の検討を実施した。また、景観整備のため堤防等の除草業務や広場の植栽剪定業務を行った。	保津川の魅力を発信する取組について、各種イベント、講座の参加者数は目標を上回り、市外からも多くの参加をいただいた。2回の歴史講座では第1回で保津川と近世の人々との関わりや、保津川の古写真を利用したトークを行い、第2回では川の生業が観光資源として今後も継続している長良川・天竜川・保津川について、各県の担当者や船下りの事業者を招いて比較等を行った。こうした取り組みを通じて、保津川の価値を見直し理解を深める機会を提供できた。また、保津川の川べりでいかだの試し乗りを実施したり、国際森林シンポジウム（森の京都）展示会場で復興連資料の展示を行うことで保津川を軸とした筏文化復活への取り組みを広く知ってもらう機会となった。 保津川の魅力を定着化する取組としてはアユモドキ生息環境再生整備実験の結果、都市計画公園の一部と周辺に共生ゾーンを設ける構想につながった。また、除草や植栽剪定により景観維持を行い保津川の魅力が高まった。	各種イベント、講座	1,100人	1,702人	B	企業のCSR活動社数や転入者数は目標に達しなかったが、各種イベント参加者や観光入込客数の増加がみられ、一定の効果があった。	
							保津川での企業のCSR活動社数	3社	2社			
							市外からの転入者	2,660人	2,450人			
							観光入込客数 ※各事業の効果に基づいて積算しているため、事業ごとに目標値が異なっています。	2,430,000人	2,799,860人			
2	「森の京都」DMO地域活性化推進事業	企画管理部 企画調整課 産業観光部 観光戦略課	【総事業費】 10,000,000 【交付金】 10,000,000 (交付率10/10)	「林業の振興」「自然環境の保全」「森の文化の魅力発信」などの取組を強化するとともに、森の京都の魅力を全国に発信する「森の京都博」を開催し、交流人口の拡大及び定住促進の取組の強化を図った。また、「森の京都DMO」を設立し、総合的かつ計画的に観光地域づくりを推進する。	森の京都地域（福知山市、綾部市、亀岡市、南丹市、京丹波町）の観光関連団体や行政などが連携、ネットワークの強化を図り、地域の総合プロデューサーとして地域の魅力を引き出し、地域力を高める組織「一般社団法人森の京都地域振興社（通称：森の京都DMO）」を設立し、観光地域づくりの推進による交流人口の拡大、地域全体の振興を図った。 また、平成28年度は「森の京都」のターゲットイヤーとして、通年事業として「森の京都博」が開催された。亀岡市においては「森の京都博」メインイベントの一つとして、従来とは違う視点から「森の京都」への興味・関心を掘り起こし、「森の京都」エリアに対する新たな関心層を作り出すことを目的に、女性向けファッション誌である「aer」とタイアップし、平成28年5月28日（土）に、「森の京都博×mer☆ガールズFes」が開催された他、本市における「森の京都」重点エリアである千歳町自治会において、地域資源である「丹波七福神」を活用した地域振興、交流人口の拡大を目的に、「千歳はっぴい宝船～丹波七福神フェスティバル～」が実施されるにあたり、「森の京都」事業補助金を交付し、事業推進の補助を行った。	地域の多様な事業者が参画して（一社）森の京都地域振興社が設立されたこと等により、各地域の取り組みを横断的に調整しながら、地域資源のブラッシュアップ、どこにでもあるようでどこにもない地域の魅力の発信、知名度の向上等を図り、地域全体で観光誘客等を推進する基礎が構築された。 また、1年間を通して、「森の京都博」を開催した結果、例年よりも多くの方々に森の京都エリアに來訪いただき、交流人口の拡大につながった。「千歳はっぴい宝船～丹波七福神フェスティバル～」については、当日は、雨天であったものの、町内外から多数の参加者が來訪され、千歳町の有する歴史・自然・農産物等の魅力発信につながった。	ツアー参加者数年間合計	100人	140人	A	各種イベントの開催により交流人口の拡大に効果があり、森の京都エリアの魅力発信ができたため十分な効果があった。	
							観光入込客数 ※各事業の効果に基づいて積算しているため、事業ごとに目標値が異なっています。	2,480,000人	2,799,860人			
	総事業費合計		29,697,449									
	交付金合計		29,697,449									

※重要業績評価指標(KPI)とは、各事業ごとの進捗状況を検証するために設定する指標(目標値)です。

<凡例>
A：地方創生に非常に効果があった
B：地方創生に効果があった
C：地方創生に効果がなかった

No.	①事業名	②担当部課	③実績額（円）	④事業概要	⑤取組内容	⑥取組の成果	⑦重要業績評価指標（KPI※）			⑧KPIに基づく評価		⑨その他
							項目	目標値（H29.3）	実績値	評価	特記事項	
	（府広域）今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業	生涯学習部 スポーツ推進課 産業観光部 ものづくり産業課 観光戦略課 農林振興課 教育部 文化資料館	【総事業費】 63,189,926 【交付金】 31,594,963 (交付率1/2)	ワールドベストシティランキン グで2年連続1位に輝いた京都 市に訪れる国内外の観光客を、 京都府全域への周遊へつなげて いくため、国際観光都市「京都 市」、北部の「海」、中部の 「森」、南部の「お茶」という 地域ブランドの下にそれぞれ DMOを設立し、圏域内の観光・ 交流・集客等に関する事業を一 元的・総合的に実施できる体制 整備を進めるとともに、各DMO 間の周遊性の向上による観光滞 在時間の長期化と観光消費額の 増加を図り、観光産業が地域経 済を循環させる社会の実現を目 指す。	亀岡市の観光の魅力を高めるため、「観光プロモーション・基盤 整備事業」、「食農・観光等連携事業」、「にぎわい誘客事業」に ついて実施した。 「観光プロモーション・基盤整備事業」としては観光案内機能の 強化としてJR亀岡駅観光案内所及びトロッコ亀岡駅観光案内所にお ける英語観光案内対応事業やトロッコ嵯峨駅における臨時観光案内 所設置事業、築約100年の町家を活用した城下町観光案内所事業を 行った他、本市の魅力を発信するため本市ゆかりの「明智光秀」大 河ドラマ誘致活動事業、ロケ支援・誘致プロモーション事業、本市 観光マスコットキャラクターを活用した観光キャンペーンを行っ た。 「食農・観光等連携事業」としては亀岡の「食」と「農」につい て広く周知し、また地産地消が促進できるよう「アグリフェスタ 2016」や「農業塾」、「料理塾」を開催した。また、安全・安心な 農産物を消費者に提供できるよう、農業や化学肥料の低減による環 境に配慮した農業への支援として、亀岡市内で製造された畜産堆肥 を活用し、農業の根幹となる土づくりを通じて集落営農活動を促進 すると共に、安全安心な農産物の生産振興により亀岡野菜ブランド の確立と販売力の拡大に努めた。販売に関しては、市内直売所に対 し体制強化のための助成を行った。 「にぎわい誘客事業」としては、観光入込客数を伸ばすため、明 智光秀ゆかりの城下町を散策しながら協賛店でお得に食事、土産等 を購入できる「宝さがしゲーム」の実施、「亀岡祭」山鉦行事に合 わせて城下町にあんどんを灯し街角ギャラリー等のにぎわい創出事 業を実施した。また、京都亀岡ハーフマラソンや商店街の「京都サ ンガ2017シーズン亀岡市壮行会」や「第10回亀山城下ひなまつり事 業」への補助を行った他、文化資料館において第60回企画展「季節 の楽しみ～行事食と暮らしの道具～」、第32回特別展「山とともに くらす～森・川・いかだ～」を開催し、亀岡のにぎわい創出、魅力 発信につとめた。 また、その他の事業としてJR4駅に隣接する駐輪場を活用したレン タサイクル事業を実施し、点在する観光資源のネットワーク化を 図った。	「観光プロモーション・基盤整備事業」に ついては臨時観光案内所を含め観光案内所 には英語のできるスタッフを常駐させ、露の風 景や京野菜、天然砥石等ここにしかない観光 資源のPR、また、世界的観光都市である京都 市からJR快速でわずか20分の地の利を活か し、一足伸ばしの観光地として「体験観光」の プロモーション等を実施し、外国人を含めた 観光入込客、外国人宿泊者数、及び観光消費 額の増加につなげた。 「食農・観光等連携事業」については、 「アグリフェスタ2016」で約5,000人の方に 安全安心な亀岡産農畜産物や加工品、農業体 験を楽しんでいただき、「食」と「農」の理 解促進、また「地産地消」の意識づけについ て、一定の成果があったものと考えてる。ま た、安全・安心な農産物を提供するため、亀 岡市内で製造された畜産堆肥を活用し、集落 営農活動を推進する農家に対し、助成を行っ た。環境にやさしい循環型農業への取組み に貢献した。 「にぎわい誘客事業」については関連団体 等と協働で本市の歴史・文化に触れる取組 み、地域の特産品等をPRする取組みを実施 したり、観光地やハイキングコース等の整備 を実施することでにぎわいを創出し、外国人 観光客を含めた観光入込客及び観光消費額 の増を図った。 また、レンタサイクル事業によって点在す る観光資源や交通拠点を結び、滞在時間の延 長、観光消費額の増加につなげた。	観光消費額	（府）8910.4億円	（府）1兆1446.7億円	A	京都府内全域の目標値を十分 達成し、広域連携による観光推 進事業として十分な成果があっ た。	
							観光入込客数	（府）8499.2万人	（府）8741.1万人			
							外国人宿泊者数	（府）209.8万人	（府）325.6万人			
		総事業費合計	63,189,926									
		交付金合計	31,594,963									

※重要業績評価指標(KPI)とは、各事業ごとの進捗状況を検証するために設定する指標(目標値)です。

<凡例>
A：地方創生に非常に効果があった
B：地方創生に効果があった
C：地方創生に効果がなかった

No.	①事業名	②担当部課	③実績額（円）	④事業概要	⑤取組内容	⑥取組の成果	⑦重要業績評価指標（KPI※）			⑧KPIに基づく評価		⑨その他
							項目	目標値（H29.3）	実績値	評価	特記事項	
1	保津川の魅力を定着化し地域資源に活用するまち興し	環境市民部 環境政策課 土木建築部 桂川・道路整備課 教育部 社会教育課 文化資料館	【総事業費】 19,697,449 【交付金】 19,697,449 (交付率10/10)	天然記念物アユモドキに代表される貴重な生き物の魅力を活用した事業を展開するため、川ごみ学習や保津川の歴史講座などで保津川の魅力を発信するとともに、景観整備や自然環境を活かした共生ゾーンを検討するなかで、まち興しを行う。	保津川の魅力を発信する取組として、保津川の自然景観を体感しながら環境保全の重要性を感じられる事業を展開することで自然環境・景観の保全に対する意識の向上を図り、川に視点を置いた暮らしの象徴として筏の復活とアユモドキの保護啓発活動を実施した。また、川と人との関わりや物流、川の生業の歴史についてなど保津川の文化遺産としての魅力に迫る全2回の「保津川歴史講座」を開催し、歴史講座への参加が少なかった若年層を対象として保津川の魅力について解説したパンフレットを作成した。 保津川の魅力を定着化する取組として、「京都・亀岡保津川公園」内において、アユモドキをはじめとする希少な生物が生息できる共生ゾーンの整備に向けたアユモドキ生息環境再生整備実験を行うとともに、亀岡市都市計画公園「京都・亀岡保津川公園」共生ゾーン基本構想の検討を実施した。また、景観整備のため堤防等の除草業務や広場の植栽剪定業務を行った。	保津川の魅力を発信する取組について、各種イベント、講座の参加者数は目標を上回り、市外からも多くの参加をいただいた。2回の歴史講座では第1回で保津川と近世の人々との関わりや、保津川の古写真を利用したトークを行い、第2回では川の生業が観光資源として今も継続している長良川・天竜川・保津川について、各県の担当者や船下りの事業者を招いて比較等を行った。こうした取り組みを通じて、保津川の価値を見直し理解を深める機会を提供できた。また、保津川の川べりでいかだの試し乗りを実施したり、国際森林シンポジウム（森の京都）展示会場で筏関連資料の展示を行うことで保津川を軸とした筏文化復活への取り組みを広く知ってもらう機会となった。 保津川の魅力を定着化する取組としてはアユモドキ生息環境再生整備実験の結果、都市計画公園の一部と周辺に共生ゾーンを設ける構想につながった。また、除草や植栽剪定により景観維持を行い保津川の魅力が高まった。	各種イベント、講座	1,100人	1,702人	B	企業のCSR活動社数や転入者数は目標に達しなかったが、各種イベント参加者や観光入込客数の増加がみられ、一定の効果があった。	
	保津川での企業のCSR活動社数	3社	2社									
	市外からの転入者	2,660人	2,450人									
	観光入込客数 ※各事業の効果に基づいて積算しているため、事業ごとに目標値が異なっています。	2,430,000人	2,799,860人									
		総事業費合計	19,697,449									
		交付金合計	19,697,449									

※重要業績評価指標（KPI）とは、各事業ごとの進捗状況を検証するために設定する指標（目標値）です。

<凡例>

A：地方創生に非常に効果があった

B：地方創生に効果があった

C：地方創生に効果がなかった

No.	①事業名	②担当部課	③実績額（円）	④事業概要	⑤取組内容	⑥取組の成果	⑦重要業績評価指標（KPI※）			⑧KPIに基づく評価		⑨その他
							項目	目標値（H29:3）	実績値	評価	特記事項	
1	保津川の魅力を定着化し地域資源に活用するまち興し	環境市民部 環境政策課 土木建築部 桂川・道路整備課 教育部 社会教育課 文化資料館	【総事業費】 19,697,449 【交付金】 19,697,449 （交付率10/10）	天然記念物アユモドキに代表される貴重な生き物の魅力を活用した事業を展開するため、川ごみ学習や保津川の歴史講座などで保津川の魅力を発信するとともに、景観整備や自然環境を活かした共生ゾーンを検討するなかで、まち興しを行う。	保津川の魅力を発信する取組として、保津川の自然景観を体感しながら環境保全の重要性を感じられる事業を展開することで自然環境・景観の保全に対する意識の向上を図り、川に視点を置いた暮らしの象徴として復の復活とアユモドキの保護啓発活動を実施した。また、川と人との関わりや物流、川の生業の歴史についてなど保津川の文化遺産としての魅力に迫る全2回の「保津川歴史講座」を開催し、歴史講座への参加が少なかった若年層を対象として保津川の魅力について解説したパンフレットを作成した。 保津川の魅力を定着化する取組として、「京都・亀岡保津川公園」内において、アユモドキをはじめとする希少な生物が生息できる共生ゾーンの整備に向けたアユモドキ生息環境再生整備実験を行うとともに、亀岡市都市計画公園「京都・亀岡保津川公園」共生ゾーン基本構想の検討を実施した。また、景観整備のため堤防等の除草業務や広場の植栽剪定業務を行った。	保津川の魅力を発信する取組について、各種イベント、講座の参加者数は目標を上回り、市外からも多くの参加をいただいた。2回の歴史講座では第1回で保津川と近世の人々との関わりや、保津川の古写真を利用したトークを行い、第2回では川の生業が観光資源として今後も継続している長良川・天竜川・保津川について、各県の担当者や船下りの事業者を招いて比較等を行った。こうした取り組みを通じて、保津川の価値を見直し理解を深める機会を提供できた。また、保津川の川べりでいかだの試し乗りを実施したり、国際森林シンポジウム（森の京都）展示会場で復興連資料の展示を行うことで保津川を軸とした復文化復活への取り組みを広く知ってもらう機会となった。 保津川の魅力を定着化する取組としてはアユモドキ生息環境再生整備実験の結果、都市計画公園の一部と周辺に共生ゾーンを設ける構想につながった。また、除草や植栽剪定により景観維持を行い保津川の魅力が高まった。	各種イベント、講座	1,100人	1,702人	B	企業のCSR活動社数や転入者数は目標に達しなかったが、各種イベント参加者や観光入込客数の増加がみられ、一定の効果があった。	
							保津川での企業のCSR活動社数	3社	2社			
							市外からの転入者	2,660人	2,450人			
							観光入込客数 ※各事業の効果に基づいて積算しているため、事業ごとに目標値が異なっています。	2,430,000人	2,799,860人			
2	森のステーション・匠ビレッジ事業	産業観光部 観光戦略課	【総事業費】 25,000,000 【交付金】 25,000,000 （交付率10/10）	地域資源（チョロギ、天然砥石等）を有効活用し、既存の亀岡交流会館に「匠ビレッジ」を設置し、仕事の体験できる場を整備するとともに、地域特産活用型ビジネスの事業展開を行い、交流人口の増加、雇用の拡大、担い手等の確保、雇用の促進、移住定住へ繋げる。	亀岡の地域資源のひとつである天然砥石に着目し、既存施設である亀岡市交流会館を、亀岡産の天然砥石をはじめ日本各地や世界の砥石を展示するとともにインストラクターが研ぎ方を教える「研ぎ体験コーナー」も常設するなど研ぎの体験ができる展示体験型の施設として整備した。すばらしい技でモノを作り上げる職人の仕事を支え続けてきた「天然砥石」。この上質で多様な砥石が採れるここ亀岡を「天然砥石の聖地」として広く発信するとともに、本地域で創作活動をされている工芸をはじめとする「匠の技」の展示販売コーナーも兼ね備えた亀岡市の新たな観光の拠点として「森のステーションかめおか」匠ビレッジをスタートさせた。 また、地域特産活用型ビジネスモデルとして、認知症予防に効果があるとされている「チョロギ」をはじめ金時生薑などの販売ブースの設置をし、新たな雇用を促進し、移住定住につなげるために、今後整備予定の蕎麦原や薬膳レストランなどの整備検討をおこなった。	「森の京都」というキャッチフレーズのもと、「森」をテーマとした戦略的な交流拠点づくり、地域資源を活用する拠点づくりをめざすための端を開く事業展開ができ、匠ビレッジのプレオープン時には、目標を上回る来場者でにぎわった。 匠ビレッジにおいては天然砥石の歴史や地質についての展示解説の他に、新規就業者として2名の職人を雇用し、天然砥石を使用しての包丁等の研ぎ体験の指導をおこなうことで、亀岡の砥石文化を広く発信し、職人の技術を体験できる魅力ある施設として整備した。	観光入込客数 ※各事業の効果に基づいて積算しているため、事業ごとに目標値が異なっています。	2,435,000人	2,799,860人	A	3大観光に次ぐ新たな観光拠点として、地域資源を活かした魅力ある施設として十分な効果があった。	
							観光消費額	64億円	74.20億円			
							匠ビレッジ新規就業者数	2人増	2人増			
							匠ビレッジ・展示ブース入場者	1,000人	2,844人			
3	「森の京都」DMO地域活性化推進事業	企画管理部 企画調整課 産業観光部 観光戦略課	【総事業費】 10,000,000 【交付金】 10,000,000 （交付率10/10）	「林業の振興」「自然環境の保全」「森の文化の魅力発信」などの取組を強化するとともに、森の京都の魅力を全国に発信する「森の京都博」を開催し、交流人口の拡大及び定住促進の取組の強化を図った。また、「森の京都DMO」を設立し、総合的かつ計画的に観光地域づくりを推進する。	森の京都地域（福知山市、綾部市、亀岡市、南丹市、京丹波町）の観光関連団体や行政などが連携、ネットワークの強化を図り、地域の総合プロデューサーとして地域の魅力を引き出し、地域力を高める組織「一般社団法人森の京都地域振興社（通称：森の京都DMO）」を設立し、観光地域づくりの推進による交流人口の拡大、地域全体の振興を図った。 また、平成28年度は「森の京都」のターゲットイヤーとして、通年事業として「森の京都博」が開催された。亀岡市においては「森の京都博」メインイベントの一つとして、従来とは違う視点から「森の京都」への興味・関心を掘り起こし、「森の京都」エリアに対する新たな関心層を作り出すことを目的に、女性向けファッション誌である「mer」とタイアップし、平成28年5月28日（土）に、「森の京都博×mer☆ガールズFes」が開催された他、本市における「森の京都」重点エリアである千歳町自治会において、地域資源である「丹波七福神」を活用した地域振興、交流人口の拡大を目的に、「千歳はでっかい宝船～丹波七福神フェスティバル～」が実施されるにあたり、「森の京都」事業補助金を交付し、事業推進の補助を行った。	地域の多様な事業者が参画して（一社）森の京都地域振興社が設立されたこと等により、各地域の取り組みを横断的に調整しながら、地域資源のブラッシュアップ、どこにでもあるようでどこにもない地域の魅力の発信、知名度の向上等を図り、地域全体で観光誘客等を推進する基礎が構築された。 また、1年間を通して、「森の京都博」を開催した結果、例年よりも多くの方々に森の京都エリアに來訪いただき、交流人口の拡大につながった。「千歳はでっかい宝船～丹波七福神フェスティバル～」については、当日は、雨天であったものの、町内外から多数の参加者が來訪され、千歳町の有する歴史・自然・農産物等の魅力発信につながった。	ツアー参加者数年間合計	100人	140人	A	各種イベントの開催により交流人口の拡大に効果があり、森の京都エリアの魅力発信ができたため十分な効果があった。	
							観光入込客数 ※各事業の効果に基づいて積算しているため、事業ごとに目標値が異なっています。	2,480,000人	2,799,860人			
4	京都丹波移住定住プロジェクト	産業観光部 ものづくり産業課	【総事業費】 3,000,000 【交付金】 3,000,000 （交付率10/10）	京都丹波の2市1町（南丹市、京丹波町、亀岡市）が連携して、特に各地域の事業所と若者の就職のマッチングを行うとともに、移住促進のパンフレットを作成する。	京都丹波の2市1町において「京都丹波就職支援協議会」を立ち上げ、同協議会において以下の事業を実施した。 ①採用力向上セミナーの実施（11/29ガレリアにて実施。19事業所参加） ②ワークショップ等のイベント開催（2/7大阪市内、2/13京都市内にて開催。計13事業所参加、延べ参加者数56名） ③合同企業説明会の実施（1/24ガレリア、1/26南丹市国際交流会館にて実施。計51事業所参加、延べ参加者数52名） ④企業面接イベントの実施（2/13京都市内にて実施。計7事業所参加、延べ参加者数37名） ⑤企業見学ツアーの実施（3/14実施（南丹市・京丹波町）18名参加。3/16実施（亀岡市）15名参加。） ⑥移住促進及び就職マッチングを目的としたPR冊子「京都丹波Walker」を作成	ワークショップ等のイベント開催や移住促進及び就職マッチングを目的とした「京都丹波Walker」の作成により、京都丹波地域以外の多くの方々に対して、当該地域の企業の魅力や地域の特徴を広く周知することが出来た。また、合同企業説明会や企業見学ツアーの実施により、亀岡市内に所在する中小企業の魅力を直に触れることができ、結果、4件の問い合わせが見られ、内、2件の正社員採用に繋がる等の成果が見られた。なお、「京都丹波就職支援協議会」に大学生の参画を目標としていたが、亀岡市及び京丹波町において参画はなかったものの、南丹市において1名の大学生の参画があり、当該事業を実施する上で、当該年齢層の意見を踏まえた上での事業実施に一定の成果が見られた。	大学生参画者数	2人	0人	B	大学生の参画は亀岡市ではなかったが、就職マッチングへの相談者数は目標以上で、正社員採用の成果もあり、一定の効果があった。	
							就職マッチング相談者数	50人	57人			
							パンフレット作成数	4,000部	4,000部			
総事業費合計			57,697,449									
交付金合計			57,697,449									

※重要業績評価指標(KPI)とは、各事業ごとの進捗状況を検証するために設定する指標(目標値)です。

<凡例>

A：地方創生に非常に効果があった

B：地方創生に効果があった

C：地方創生に効果がなかった

No	①事業名	②担当部課	③実績額（円）	④事業概要	⑤取組内容	⑥取組の成果	⑦重要業績評価指標（KPI※）			⑧KPIに基づく評価		⑨その他
							項目	目標値（H29.3）	実績値	評価	特記事項	
1	（府広域）今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業	生涯学習部 スポーツ推進課 産業観光部 ものづくり産業課 観光戦略課 農林振興課 教育部 文化資料館	【総事業費】 63,189,926 【交付金】 31,594,963 （交付率1/2）	ワールドベストシティランキン グで2年連続1位に輝いた京都 市に訪れる国内外の観光客を、 京都府全域への周遊へつなげ ていくため、国際観光都市「京 都市」、北部の「海」、中部の 「森」、南部の「お茶」とい う地域ブランドの下にそれぞれ DMOを設立し、岡域内の観光・ 交流・集客等に関する事業を一 元的・総合的に実施できる体制 整備を進めるとともに、各DMO 間の周遊性の向上による観光滞 在時間の長期化と観光消費額の 増加を図り、観光産業が地域経 済を循環させる社会の実現を目 指す。	亀岡市の観光の魅力を高めるため、「観光プロモーション・基盤 整備事業」、「食農・観光等連携事業」、「にぎわい誘客事業」に ついて実施した。 「観光プロモーション・基盤整備事業」としては観光案内機能の 強化としてJR亀岡駅観光案内所及びトロッコ亀岡駅観光案内所にお ける英語観光案内対応事業やトロッコ嵯峨駅における臨時観光案内 所設置事業、築約100年の町家を活用した城下町観光案内所事業を 行った他、本市の魅力を発信するため本市ゆかりの「明智光秀」大 河ドラマ誘致活動事業、ロケ支援・誘致プロモーション事業、本市 観光マスコットキャラクターを活用した観光キャンペーンを行っ た。 「食農・観光等連携事業」としては亀岡の「食」と「農」につい て広く周知し、また地産地消が促進できるよう「アグリフェスタ 2016」や「農業塾」、「料理塾」を開催した。また、安全・安心な 農産物を消費者に提供できるよう、農業や化学肥料の低減による環 境に配慮した農業への支援として、亀岡市内で製造された畜産堆肥 を活用し、農業の根幹となる土づくりを通じて集落営農活動を促進 すると共に、安全安心な農産物の生産振興により亀岡野菜ブランド の確立と販売力の拡大に努めた。販売に関しては、市内直売所に対 し体制強化のための助成を行った。 「にぎわい誘客事業」としては、観光入込客数を伸ばすため、明 智光秀ゆかりの城下町を散策しながら協賛店でお得に食事、土産等 を購入できる「宝さがしゲーム」の実施、「亀岡祭」山鉾行事に合 わせて城下町にあんどんを灯し街角チャリナー等のにぎわい創出事 業を実施した。また、京都亀岡ハーフマラソンや商店街の「京都サ ンガ2017シーズン亀岡市壮行会」や「第10回亀山城下ひなまつり事 業」への補助を行った他、文化資料館において第80回企画展「季節 の楽しみ～行事食と暮らしの道具～」、第32回特別展「山とともに くらす～森・川・いかに～」を開催し、亀岡のにぎわい創出、魅力 発信につとめた。 また、その他の事業としてJR4駅に隣接する駐輪場を活用したレン タサイクル事業を実施し、点在する観光資源のネットワーク化を 図った。	「観光プロモーション・基盤整備事業」については臨時観光案内所を含め観光案内所 には英語のできるスタッフを常駐させ、露の風 景や京野菜、天然砥石等ここにしかない観光 資源のPR、また、世界的観光都市である京都 市からJR快速でわずか20分の地の利を活か し、一足伸ばしの観光地として「体験観光」の プロモーション等を実施し、外国人を含めた 観光入込客、外国人宿泊者数、及び観光消費 額の増加につなげた。 「食農・観光等連携事業」については、 「アグリフェスタ2016」で約5,000人の方に 安全安心な亀岡産農産物や加工品、農業体 験を楽しんでいただき、「食」と「農」の理 解促進、また「地産地消」の意識づけについ て、一定の成果があったものとする。ま た、安全・安心な農産物を提供するため、亀 岡市内で製造された畜産堆肥を活用し、集落 営農活動を推進する農家に対し、助成を行っ た。環境にやさしい循環型農業への取り組み に貢献した。 「にぎわい誘客事業」については関連団体 等と協働で本市の歴史・文化に触れる取り組 み、地域の特産品等をPRする取り組みを実施 したり、観光地やハイキングコース等の整備 を実施することでにぎわいを創出し、外国人 観光客を含めた観光入込客及び観光消費額 の増を図った。 また、レンタサイクル事業によって点在す る観光資源や交通拠点を結び、滞在時間の延 長、観光消費額の増加につなげた。	観光消費額	（府）8910.4億円	（府）1兆1446.7億円	A	京都市内全域の目標値を十分 達成し、広域連携による観光推 進事業として十分な成果があっ た。	
							観光入込客数	（府）8499.2万人	（府）8741.1万人			
							外国人宿泊者数	（府）209.8万人	（府）325.6万人			
2	森のステーションかめおか	産業観光部 ものづくり産業課 観光戦略課	【総事業費】 10,000,000 【交付金】 5,000,000 （交付率1/2）	「森の京都」としての取組の 効果をより一層高めるため、市 街地周辺地域のそれぞれ特徴を 有する神前地区【匠ビレッジ、 チョロギ村】、西別院町【ドリ ムトン村（英国村）】、川東地 区【レンタサイクル事業等】の 3地域を「森のステーション」 として位置付け、「森の京都」 の新たな入り口としての機能を 持たせ、市街地及び隣接する京 阪神から来訪者呼び込み、亀 岡市全体に人の流れを創出し、 滞在型の事業を展開すること で、亀岡市の付加価値を向上さ せ、にぎわい人口の拡大及び定 住促進に繋げることを目的とす る。	「森の京都」としての取組の効果をより一層高めるため、国道9号 をはじめ、それに接続する幹線道路周辺地域を「森」をテーマに地 域資源を活用した観光誘客を図る「森のステーション」として位置 づけ、隣接する京阪神から来訪者呼び込み、亀岡市全体における 人の流れを創出し、滞在型の事業を展開することで、亀岡市のブラ ンド力を高め、にぎわい人口の拡大及び定住促進に繋げることを目 的に「森のステーション基本計画」を策定した。 また、宮前町神前地区の森のステーション匠ビレッジにおいて亀 岡の特産品である天然砥石やチョロギを中心に、SHOKU（職・食・ 触・植・織・飾）をテーマとした展示・体験ゾーンを、プレオープン し、匠の技に触れる展示体験事業として、「天然砥石と匠の技」展 を開催するため、展示体験ブースの設置等充実を図った。	3ヶ年計画の初年度として、交流会館、匠 ビレッジの基草原整備事業、匠の技に触れる 展示体験事業を実施した。平成29年度に整 備する基草原については計画図の作成及び障 害柵を整備し、匠ビレッジの展示については 平成29年度のリニューアルオープンに向け て天然砥石の採掘現場を再現したオブジェの 制作をはじめ、刀剣用、料理人の包丁用、大 工職人の鑿や鉋用途に合わせた天然砥石とそ の道具をブースを設ける使用道具の展示や体 験学習の普及活動の充実にも努めた。 職人の技伝習事業においては、実際に2 名の職人による、天然砥石を使用しての包丁 等の研ぎ体験の指導をおこない、文化の発信 とともに職人の技術を体験できる機会を提供 するなど、地域資源を活かした亀岡の新たな 観光拠点として魅力を高めることができた。	観光消費額	64.58億円	74.20億円	A	森のステーション全体として 目標以上の来客があり、亀岡市 の新たな観光拠点として、十分 な効果があった。	
							森のステーションかめおか 入場者数	120,000人	125,619人			
							匠ビレッジかめおか職人 の技伝習事業による 職人サポート数	2人	2人			
3	「亀岡まるごとガーデン・ ミュージアム」プロジェクト	まちづくり推 進部 都市計画課 都市整備課	【総事業費】 4,092,441 【交付金】 2,046,220 （交付率1/2）	亀岡市内に息づく花や緑など の魅力を体感いただくため、市 民・民間が主役の緑のまちづく りを進める「ガーデン・ミュー ジウム」と、豊かな自然環境に 恵まれた地域の生物保全や地域 資源を活かしたまちづくりを進 める「ネイチャー・ミュージア ム」の2つを融合させ、亀岡ま るごとミュージアム（博物館） として位置付け、亀岡の来訪者 へのおもてなしの気持ちを表す とともに、地域活性化、観光振 興を図り、にぎわい人口の拡大 及び定住促進に繋げる。	本プロジェクトの構想を策定するため、保全・再生等を行うべき 地域資源の抽出とその特性に関して、都市部について京都学園大 学、農村部について京都大学にて調査を実施した。 また、本市が推進する花と緑のまちづくりの一環として、京都縦 貫道亀岡ランプにおいて、来訪者を気持ちよく迎え、亀岡の魅力を 体感いただくためのウェルカムガーデンを整備するため、計画作成 を委託した。	構想策定に向けて実施した調査内容・調査 結果を基に、今年度引き続き具体施策提案を 含んだ構想のまとめを行うこととしている。 構想の内容に合わせ、具体的な事業実施に繋 げることとする。 なお、平成29年3月18日に「亀岡まるごと ガーデン・ミュージアム」構想（都市部編） 策定に関する調査研究について開催した京観 講演会において、市民等69名が参加し44 道のアンケートが提出され、市民の関心を寄 せている。今後、市内外に構想の取組みにつ いて広く発信していき、亀岡を訪れたい、亀 岡に住みたいという意識の醸成に繋げる。	亀岡市の転出入の増減幅 縮小	△1,825人 （転出が転入を 1,825人超過）	△2,010人 （転出が転入を 2,010人超過）	B	転出入数にすぐに効果は出て いないが、亀岡市を訪れる人 を示すにぎわい人口は増加して おり、今後の展開に向けて一定 の効果はあった。	
							にぎわい人口	5,648,000人	5,917,122人			
							市民及び来訪者アンケ ートによる亀岡市での居住 意向人数	175人	未実施			
		総事業費合計	77,282,367									
		交付金合計	38,641,183									

※重要業績評価指標（KPI）とは、各事業ごとの進捗状況を検証するために設定する指標（目標値）です。